

活動レポート

No.16

2016年8月21日発行

OLC+ オアシスライフ・ケア



周囲を盛り土で囲まれる防災庁舎跡。2016年8月撮影。

SHIZU革プロジェクト

鷲のように翼を張って上る

2011年11月、SHIZU革プロジェクトは8名のお母さん方とスタートしました。運営スタッフもお母さん方も革細工の経験は無し。教材はスタッフの手書きによるもの。見よう見まねで革を切ったりよじったりするお母さん方の手つきはおぼつかず、当初は困惑する方々が大半でした。実際に不合格品も相当数で、早々に製作物の見直しを余儀なくされもしました。期待を口にしつつも、見通しが明るかったわけでは決してありません。



2016年8月、間もなくでプロジェクトは5周年、そしてファイナルを迎えます。プロジェクトは奇跡としか思えないことの連続で現在に至りました。メルセデス・ベンツ日本やロックミュージシャン氷室京介氏とのコラボしかり、全国ニュースでとりあげられたことしかり（詳細については、公式サイト www.shizugawa.jp にて）。最近では再販やプロジェクトの継続を望む声が多く寄せられています。また、今月上旬には大手通販サイ

ト Yahoo! ショッピングの売上ランキングで『アクセサリ部門・1位』を獲得しました。リピートで購入してくださる方も少なくありません。これまでの経緯や最後まで絶えない反響に思うのです。「5年間続けたのではなく、5年間続けさせていただいたのだ」と。「ご志援」して下さった皆さまによって、そして、背後で豊かに働いて後押しし続けて下さった神さまによって。

SHIZU革のシンボルは、南三陸町（旧・志津川町）の町鳥であるイヌワシに神さまからのメッセージを重ね合わせたものです。「主（神さま）に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。」（聖書・イザヤ書40章31節）



この5年間、個人的にもシンボルに込められた意味を何度も味わいました。プロジェクトは終了しますが、私たちの信じる神さまは永遠です。被災地に神さまからの力がもたらされ続けますように。

SHIZU革担当 國分圭介

東松島市 矢本仮設との関わり

東松島市矢本地区の仮設住宅でのお茶っこ会も継続しています。写真は7月7日の模様。カリフォルニア州ガーディナ市の教会からボランティアチームが来てくださり、フラダンスや歌を披露しました。みんなで「アメイジンググレイス」を歌う一幕も。素敵な笑顔がたくさん見受けられました。



また、3月11日と5月5日の二回にわたって同市で開催された「青い鯉のぼりプロジェクト」に参加し、ドリンクやお茶菓子でささやかなおもてなしをさせていただきました。



震災から5年5カ月が経過した現在でも仮設住宅で生活されている方々がおられます。今後オアシスライフ・ケアは、矢本の方々との関わりに重点を置いて働きを継続する予定です。

ご連絡・お問い合わせ先

オアシスライフ・ケア

〒981-0104 宮城県宮城郡利府町中央2-5-1 オアシスチャペル利府キリスト教会内

TEL&FAX 022-356-2494(オアシスチャペルと兼用)

MAIL info@oasislifecare.org

WEB <http://oasislifecare.org>

※定期的に発行しているニュースレターをご所望の方は、お手数ですが当方までご連絡ください。

※過去の活動レポートは当方のウェブサイト上で閲覧いただけます。

※支援金につきましては同封の振込用紙にてご協力をお願いいたします。